

世界で初めて日本語によるオープンリサーチ出版を 可能にした筑波大学ゲートウェイ

森本 行人

筑波大学 URA研究戦略推進室 チーフURA

2021年度 第1回J-STAGEセミナー
2021年7月28日

【アウトライン】

1. オープンリサーチ出版ゲートウェイの概要
2. F1000Researchと連携し設立に至った経緯
3. 公開査読の仕組み
4. 困難だった点や研究者の反響



開かれた未来へ。

筑波大学
University of Tsukuba

1. オープンリサーチ出版ゲートウェイの概要

IMAGINE
THE
FUTURE.

【F1000 Research】

現在の主流な査読モデル

投稿→非公開査読→出版(著作権は出版社、引用可)→有料購読

F1000 Researchモデル:

投稿→出版(著作権は著者、引用可)→無料閲覧→公開査読

ほかのモデル(いずれも伝統的モデルに依存):

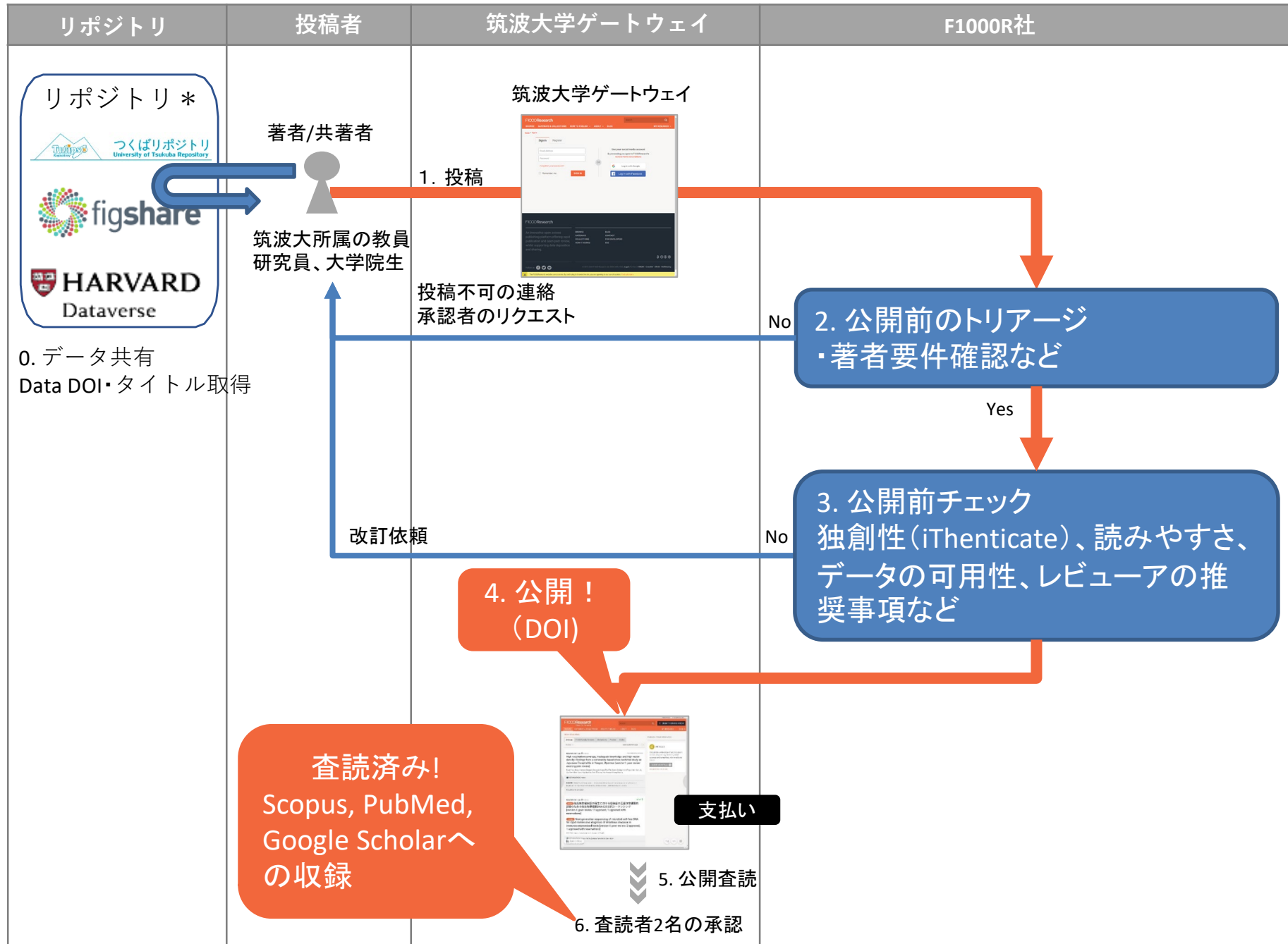
オープンアクセスジャーナルモデル: 伝統的モデル+無料閲覧

ハイブリッドモデル: 伝統的モデル+出版時に有料購読か無料閲覧かを選択

プレプリントモデル: 出版前自主公開 → 無料閲覧(+伝統的モデル)

リポジトリモデル: 伝統的モデル+出版後自主公開 → 無料閲覧

投稿の流れ



Article Processing Charges

F1000Research charges an article processing charge (APC) for all articles. APCs in F1000Research are based on [article type](#). This is in recognition of the varying editorial time and effort involved in publishing different article types.

Category A

Includes:

Data Notes,
Correspondence,
Genome Notes, Case
Studies

\$800^{*†}

Price breakdown ▼

Category B

Includes:

Study Protocols,
Registered Reports,
Software Tool Articles,
Brief Reports, Policy
Briefs

\$1,000^{*†}

Price breakdown ▼

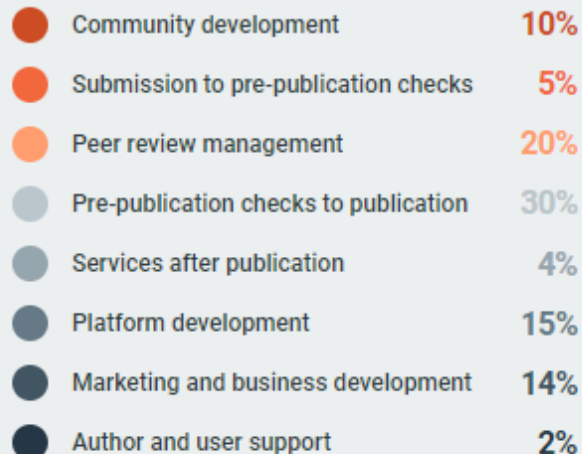
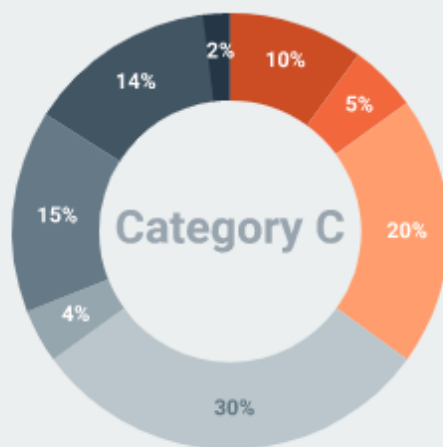
Category C

Includes:

Research Articles, Method
Articles, Antibody Validation
Articles, Reviews, Systematic
Reviews, Clinical Practice
Articles, Case Reports, Opinion
Articles

\$1,350^{*†}

Price breakdown ▼





開かれた未来へ。

筑波大学
University of Tsukuba

2. F1000Researchと連携し設立に至った経緯

IMAGINE
THE
FUTURE.

【現在用いられている評価指標】

- Impact Factor (IF)
 - ・1論文あたりの平均被引用数に相当
- Scimago Journal Rank (SJR)
 - ・名声のあるジャーナルからの引用が下位のジャーナルからの引用よりも重み付けされる
- Eigenfactor
 - ・学術相互関係や雑誌の相対的影響を考慮に入れる
- これらは引用という側面から出発した指標
 - ・引用という行為にポジティブな評価を認めるという前提については分野によって温度差がある

【人文社会分野の学術誌】

- 論文・引用データベースに収録されにくい
 - 論文が日本語で書かれている
 - 稿末に引用文献一覧を付けない論文も少なくない
- 引用数の集計がしにくい
- 従来の評価指標では見えにくく、評価の対象になってこなかった

【筑波大学の取り組み】

もっと広めるには？

- iMD (index for Measuring Diversity) の提案
新たな研究評価指標の開発に着手
論文・引用データベースに収録されていない学術誌
も含め、分野や使用言語に関係なく算出できる指標
- 筑波大学ゲートウェイ



【導入の経緯】

- 人文社会系分野における研究評価指標シンポジウム～シーズからニーズへ～
[Rebecca Lawrence氏 招へい](#)
- F1000 Research社から提案
- 「研究と学問、そして言語には壁があってはならない」という理念を共有できた=iMD
[Leave No One Behind](#)
- 日本と世界の学術情報コミュニケーションに一石を投じたいと考えた

【検討・議論】

- ローレンス氏が2度来日し、副学長（研究担当）、人文社会系長、学長補佐室長、URAが直接説明を受けた。
- 副学長（研究担当）が学内で希望調査をしたところ、一定のニーズのあることが分かった。
- 最終的には学長が決断。学内で説明会を実施した。



開かれた未来へ。

筑波大学
University of Tsukuba

3. 公開査読の仕組み

IMAGINE
THE
FUTURE.

公開査読 (Open peer review)

- 著者が5名まで査読してほしい人を推薦できる
- 査読依頼は、F1000Researchチーム
- 査読者の名前と所属は公開

▼ review activity for F1000Research.(1)

journal, F1000Research

ISSN : 2046-1402

Review date	Type	Role	Actions	
2021-03-23	review	reviewer	hide details view	
Review identifier(s)	Convening organization	Review subject	Added	Last modified
DOI: 10.5256/f1000research.55367.r81 738	F1000Research (London, GB)	From Yasashii Nihongo in non-disaster times towards a plurilingual language education approach: an outlook from the perspective of "reasonable accommodation" [version 2; peer review: 2 approved] (journal-article) F1000Research. DOI: 10.12688/f1000research.36372.2	2021-03-23	2021-04-20
Source: F1000		★ Preferred source		

[Home](#) » [Browse](#) » [COVID-19 measures and the Japanese Constitution](#)

RESEARCH ARTICLE

Check for updates

COVID-19対策と日本国憲法：新型インフルエンザ等対策特別措置法に着目して [version 1; peer review: 1 approved, 1 approved with reservations]

COVID-19 measures and the Japanese Constitution [version 1; peer review: 1 approved, 1 approved with reservations]

[秋山肇](#) [Hajime Akiyama](#)

Author details

This article is included in the [University of Tsukuba gateway](#).This article is included in the [Disease Outbreaks gateway](#).This article is included in the [Coronavirus collection](#).

ALL METRICS

1649

VIEWS

111

DOWNLOADS

Get PDF

Get XML

Cite

Export

Track

Email

Share

Open Peer Review

Reviewer Status

Reviewer Reports

Invited Reviewers

1

Version 1
23 Mar 21

read

- [Hajime Yamamoto, Keio University](#)
- [Masahiro Sogabe, Kyoto University](#)

Comments on this article

All Comments (0)

[Add a comment](#)

Sign up for content alerts

[Back to all reports](#)

Reviewer Report

 104 Views

07 Apr 2021 | for Version 1

Hajime Yamamoto, Keio University,
Tokyo, Japan [Cite this report](#) [Responses \(1\)](#)

APPROVED

本論文は、Covid-19の感染拡大に対応して「新インフルエンザ等対策特別措置法」に基づいて行われた政府による様々な要請や指示を、「憲法の枠組み」で捉えたとき、従来の枠組が不十分だと著者が評価する部分を摘示し、よりよい、と本論文著者が考える憲法学の枠組を提供しようとするものである。

Covid-19をめぐる問題は、憲法学にとっても最新かつ重要な諸問題を提起しており、本論文はこのような課題に迅速に応えて執筆されたものである。

本論文の主張の核心は、憲法の枠組をCovid-19対策で展開されてきた諸措置との関係で捉え直すと、<個人の人権 vs 公共の福祉> という二元的対立図式を、憲法上の「個人の自由を保障する概念」と「個人の自由を制限しうる概念」の二つのカテゴリーに再編し、具体的には、個人の人権として位置づけられうる生命権や生存権を、「個人の自由を保障する概念」としてだけではなく、人権制限の契機として作動しうる概念としても位置づけ直すべきだ、とするところにある。

要旨

2020年3月以来、日本においては新型インフルエンザ等対策特別措置法がCOVID-19対策の中心的な役割を果たしてきた。同法に基づき、休業や営業時間短縮の要請・指示、外出自粛要請が行われている。2021年1月時点で、罰則はないものの、これらの要請・指示には日本国憲法が保障する営業の自由や移動の自由を制限する側面がある。そこで本稿は、「COVID-19対策としての休業や営業時間短縮の要請・指示及び外出自粛要請に、憲法上の制約もしくは要請はあるか」をリサーチ・クエスチョンとして検討を行った。また、「罰則のある措置は憲法上認められるか」との論点も扱った。本稿は「個人の自由を保障する概念」及び「個人の自由を制限しうる概念」に分けて検討した。個人の自由を保障する概念としては、営業の自由と移動の自由が挙げられる。これらの自由は主に居住、移転及び職業選択の自由（憲法22条）及び財産権（同29条）により保障される。また、生命権（同13条）、生存権・公衆衛生（同25条）及び公共の福祉（同13条）への脅威となる個人の自由は制限されうる。本稿は、COVID-19対策が公共の福祉に適合するため、憲法は営業の自由及び移動の自由の制限を許容していると主張した。また、生命権、生存権・公衆衛生の観点から、政府がCOVID-19に

Browse by related subject

[Social sciences](#)

[Home](#) » [Browse](#) » [Genome-wide screening of upstream transcription factors using an expression...](#)

BRIEF REPORT

REVISED **Genome-wide screening of upstream transcription factors using an expression library [version 2; peer review: 2 approved]**✉ [Naoya Yahagi](#) , [Yoshinori Takeuchi](#) [Author details](#)This article is included in the [University of Tsukuba](#) gateway.**Abstract**

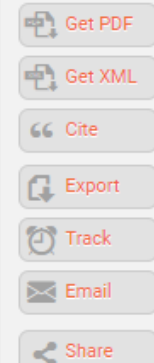
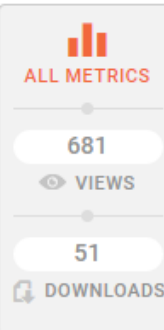
The identification of upstream transcription factors regulating the expression of a gene is generally not an easy process. To facilitate this task, we constructed an expression cDNA library named Transcription Factor Expression Library (TFEL), which is composed of nearly all the transcription factors in the mouse genome. Genome-wide screening using this library (TFEL scan method) enables us to easily identify transcription factors controlling any given promoter or enhancer of interest in a chromosomal context-dependent manner. Thus, TFEL scan method is a powerful approach to explore transcriptional regulatory networks.

Keywords

Transcription, Transcription factor, Expression cloning

✉ Corresponding author: [Naoya Yahagi](#)

Competing interests: No competing interests were disclosed.

[← Back to all reports](#)**Reviewer Report**

14 Views

16 Mar 2021 | for Version 2

Harukazu Suzuki , Laboratory for Cellular Function Conversion Technology, RIKEN Center for Integrative Medical Sciences, Yokohama, Japan

[Cite this report](#) [Responses](#) (0) **APPROVED**

I have no additional comments.

Competing Interests*No competing interests were disclosed.***Reviewer Expertise**

Regulation of gene expression, TF-mediated DNA demethylation, Cell reprogramming

I confirm that I have read this submission and believe that I have an appropriate level of expertise to confirm that it is of an acceptable scientific standard.

[← RESPOND TO THIS REPORT](#)



開かれた未来へ。

筑波大学
University of Tsukuba

4. 困難だった点や研究者の反響

IMAGINE
THE
FUTURE.

【困難だった点】

- 文系にとってはAPCが高額→部局独自の投稿料支援プログラムを用意。全学的支援も検討中
- 理系にとっては金額以外のメリットが少ない
- 国内に代理店がなかったため、契約手続きに手間と時間がかかった

～矢作直也（医学医療系准教授）のコメント～

この度はF1000Research・筑波大学ゲートウェイのローンチ、おめでとうございます。

今回投稿させて頂きました論文は、これまでに5つの雑誌から掲載を拒否されてきた論文でしたが、筑波大学ゲートウェイではスムーズに掲載が決まり、レビューアーからも高いご評価を頂くことができました。また、「この論文をぜひ読んで頂きたい」という方々をレビューアー候補として編集部へ推挙させて頂き、結果的にそういう方々に実名でレビューして頂いたのも大変幸せな経験でした。「rejectされない安心感」「読んで欲しい方にレビューしてもらえる」この2つのメリットは非常に大きく、ちょっと病みつきになりそうです。

～伊藤秀明（人文社会系助教）のコメント～

筑波大学ゲートウェイに投稿した動機は迅速な査読体制と投稿者による査読者の推薦という形式に興味を持ったことにあります。これまでの投稿では、数ヶ月、長い時には数年、投稿しては査読者の評価を待つという受け身な姿勢を歯がゆく感じることもありました。筑波大学ゲートウェイでは、同じく査読者の評価を受けるという点は変わりませんが、論文が査読前から公開されることにより査読者のコメントも多様な研究者の一つであり、その評価を論文に反映させ、さらに深めていくということが可能になったと感じたからです。また、投稿者による査読者の推薦も上記のような点を考える際に、世界中の研究者に投稿者が主導して意見を求めることができるという点で、これまでの受け身な査読体制とは異なる大きなメリットだと感じています。

～東野篤子（人文社会系准教授）のコメント～

2020年はコロナ禍のため、せっかくプロポーザルがアクセプトされていた海外の学会がすべてキャンセル・延期となってしまいました。このため、英語論文を口頭発表しフィードバックを得て、査読付ジャーナルへの投稿準備を進めるという通常のプロセスがストップしてしまい、困っていたところ、同僚が筑波大学ゲートウェイの投稿を勧めて下さいました。

査読前の論文をウェブ上に掲載し、その後にコメントをもらうという筑波大学ゲートウェイは、私が主に論文を発表してきた海外学会の方式とも近く、すんなりとなじむことが出来ました。また論文を筑波大学ゲートウェイに投稿して掲載されるまでの期間、F1000社の編集チームが非常に丁寧なエディティングやフォーマティングを行ってくれたのも、大変ありがたいことだと思っております。

2021年3月2日に論文が掲載されてから、本日（同8日）でちょうど1週間となりますが、特段の宣伝をしていなくとも現段階ですでにページビュー数が100を超えており、研究成果発信のための非常に強力なツールであると実感しました。唯一のネックは投稿費が高額（1350ドル）なことだと思いますが、今回は人社系による投稿費支援に採択していただけ、大変助かりました。コロナ禍における新しい研究発信形態のひとつとして、今後とも活用したいと考えております。

～秋山肇（人文社会系助教）のコメント～

新型コロナ対策について、日本国憲法の観点から研究しています。社会的関心の高いタイムリーな話題ですので、日本の一般の方にも読んでいただける日本語論文を即時的に発表したいと考えていました。また、自然科学の研究者も使用するF1000Researchの一部である本ゲートウェイに掲載されると、新型コロナを研究するグローバルな研究者にも、英文抄録を通して日本の法的な議論に触れていただけるため、意義があると感じ、本ゲートウェイに投稿しました。即時的に日本社会とグローバルな研究者双方に研究成果を発信できるのが、本ゲートウェイの魅力です。また、公開で査読が行われますので、恥ずかしくもありませんが、学生に論文執筆のプロセスを見せられるのもメリットだと思います。

筑波大学プレスリリースより(2021.3.18)

<https://www.tsukuba.ac.jp/news/pdf/p202103181600-jp.pdf>



開かれた未来へ。

筑波大学

University of Tsukuba

おわりに

IMAGINE
THE
FUTURE.

【筑波大学ゲートウェイの可能性】

- 筑波大学の研究成果の国際的な見える化を推進
- 筑波大学ゲートウェイが波及して、どこの国の言葉でも「迅速かつオープンに制約なしに」研究成果を発信できることがグローバルスタンダードになれば良いと願っています。

ご静聴ありがとうございました

ご意見、ご質問は下記アドレスで随時受付中です。

ut-gateway@un.tsukuba.ac.jp

文部科学省研究大学強化促進事業

JSPS科研費18H00043

JSPS科研費19K12695